

令和 6 年 第 9 回
富 山 県 教 育 委 員 会 会 議 録

I 開会及び閉会の日時

令和6年8月21日(水)

開会午後1時00分、閉会午後1時45分

II 場所

県庁4階大会議室

III 出席委員

1番 坪池 宏

2番 黒田 卓

3番 大西 ゆかり

4番 村上 美也子

5番 牧田 和樹

教育長 廣島 伸一

IV 説明出席者

理事・教育次長

水落 仁

教育次長・教育みらい室長

中崎 健志

教育次長

小杉 健

参事・教育企画課長

板倉 由美子

教育参事・教育みらい室小中学校課長

山尾 佳充

教育みらい室県立高校課長

土肥 恵一

教育みらい室特別支援教育課長

魚津 直美

教育みらい室県立高校改革推進課長

丸田 祐一

生涯学習・文化財室長

辻 ゆかり

教職員課長

安川 賢一

保健体育課長

五島 直樹

教育企画課課長(高校跡地活用・学校施設担当)

中家 立雄

教育企画課課長(ICT教育推進担当)

小林 匠

教育みらい室課長(県立高校改革推進担当)

嶋谷 克司

教育みらい室課長(児童生徒支援担当)

富川 展行

生涯学習・文化財室次長・課長(振興担当)

前川 秋人

保健体育課課長(食育安全担当)

松嶋 保子

V 傍聴人数 1人

VI 会議の要旨

午後1時00分、教育長が開会を宣する。

1 会議録の承認について

令和6年6月28日開催の令和6年第7回富山県教育委員会会議録

令和6年7月22日開催の令和6年第8回富山県教育委員会会議録

会議録閲覧

廣島教育長から可否を諮ったところ、全員異議なく承認した。

2 報告事項

(1) 令和6年度全国学力・学習状況調査について

(2) 「夜間中学」に関するアンケート調査結果について

教育みらい室小中学校課長から説明した。

(3) 第1回地域の教育を考える意見交換会の開催結果について

教育みらい室県立高校改革推進課長から説明した。

- 3 今後の教育委員会等の日程について
教育企画課主幹から説明した。

4 議決事項

午後 1 時 36 分、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 14 条第 7 項ただし書の規定に基づき、議案第 19 号については、委員全員の同意により会議を非公開とすることを可決し、議事の審議に入った。

議案第 19 号 富山県立山荘指定管理候補者選定委員会委員任命の件

生涯学習・文化財室次長・課長（振興担当）から説明し、原案のとおり可決した。

なお、非公開で審議した議案第 19 号については、適切な時期に公表することを決定した。

5 議事

○報告事項(1)(2)関係

〔牧田委員〕

・富山県が全国との平均の差が 1 ポイントとか何ポイントという話があったが、これは例えば全国のデータの分布がちゃんとあって、標準偏差が大体どれぐらいというのはわかるのか。新聞各紙で全国で何位とか出しているが、例えばそれが 1 位と 5 位の差が本当に僅差で 1 位と 5 位なのか、1 位と 5 位でははるかにレベル的に違うのかということはいまだにはわからない。統計的に平均値の山が高ければ標準偏差が小さいわけだから 1 ポイントとか 2 ポイントは誤差みたいなふうにとらえることができるし、逆に標準偏差が大きくてなだらかであれば上と下の差はすごくあるということだ。そういう分析はしたか。

〔教育みらい室小中学校課長〕

・ちょうど今分析しているところだが、毎年受ける生徒が違うので毎年毎年の標準偏差とそういった関係性は、一概には述べられないという感じがする。

〔牧田委員〕

・毎年ではなくて単年度で例えば富山県のポジションがどうなのかというのを知りたい。

〔教育みらい室小中学校課長〕

・教科にもよると思うが、感覚的な話で申し訳ないが、それほど差が開いているわけではないと思う。

〔村上委員〕

・2 点教えてもらいたい。まず学力検査の方について、質問として児童の実態調査というのがあると思うが、その項目とか何か成績と関わる内容があったのかどうかということを知りたい。もう 1 つ、夜間中学のアンケートの内容を見てみると、おそらく外国人の方で日本の文化や言語について知りたい、深く学びたいと思われる方、それは大事なことだと思う。そういう方の他に 10 代で形としては卒業したけれども十分に学べていなかったという方がいると思う。そうすると夜間中学の中で求められているものというのが随分違う訳だが、各々に対応できるような形を考えておられるのか。

〔教育みらい室小中学校課長〕

・まず 1 つ目だが、クロス調査というところで例えば ICT を活用している状況などをまとめあげると、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に進めるということが文科省で非常に言われているところだが、ICT を使って学ぶ、個別最適な部分を十分に進められているところに関しては、学力テストについて一般的に高いのではないかということは全国的に言われている。

・2 つ目の夜間中学についてだが、これから具体的な話になっていくことになると思うが、他県の状況をちょっと紹介させていただくと、外国籍の方々がこられるときにいろいろなコース分けをして、のびのびコースとかゆっくりコースとか、そういった形で進められているものと、いろいろな理由から中学校に行けなかった方々が学び直すコースということでやっているところがあるので、他県の状況を参考にして研究したいと思う。

〔村上委員〕

- ・小学生が本をどれだけ読んでいるかということが関係あるのかなと思ったのだが、そういった調査はないのか。学校で読書を月に何冊とか。

〔教育みらい室小中学校課長〕

- ・すぐには確認できない。

〔坪池委員〕

- ・富山県から出ている夜間中学に関するアンケート調査の実施についてというリリースを見ると、対象が義務教育を終了できなかった方、それから母国で義務教育を終了していない外国籍の方。これはそもそも中学校の卒業資格がないからそれを取るというのはわかる。それから病気や不登校などで十分に学校で学ぶことができなかった方、これも欠席していた間に授業を受けられなかったのだからそれを提供するということはわかる。そうすると教育機会を提供するというだけでいいのかという次の疑問がある。卒業資格を与える、あるいは卒業したことを認めるためには何らかの基準が必要になってくるのではないかと思う。その基準はある程度の学力を身につけていないと駄目なのか、あるいは受講時間とかそういう時間をクリアすればいいのかということが出てくると思う。そういうことを考えて県はどのような教育課程をそこで編成していくのか、他県の例もあるし国の基準もあると思うが、そういう視点で研究してもらいたいと思う。いずれにしても背景には学力の問題があると思っている。母国で義務教育が終了したけれども日本の高校に入学する力がない方、あるいは日本で出席していて義務教育が終了したけれども高校へ行くだけの学力がない方というのは、この夜間中学の入学資格があるとすると、対象外になるのか、ならないのかということがある。今のところ資格とか授業時数の確保ということで動いていたとしても、次の段階で必ずそっちの方にターゲットが行くんじゃないかと思う。そういう意味では、今これを考える機会として、そういった方々をどうするかというようなことも考えていく必要があると思う。そうすると夜間中学という枠組みにこだわる必要があるかどうかということもある。今、村上委員がおっしゃったが、それぞれニーズが違うとすればそういう固い枠組みではなくて、例えば生涯学習という枠組みの中でその人たちを受け入れるというやり方もあると思う。ただ受講者にとっては夜間中学というのは授業料がどうなのか、生涯学習だとしたら学費とかが発生するのか、そういうことがあると思う。そういう場合に国や県がそういう人たちをどんなふうにサポートしていくのか、例えば生涯学習の経費を負担するとかいったような次の段階の展開があると思う。これは1例なので他にもいろいろあると思うが、要は夜間中学という機能をフルスペックで提供するのがよいのか、それに適した人も当然いると思うが、そうではなくて現行の学校制度で部分的な導入によって該当すると思われる方のニーズを満たすケースもあるのではないかと思う。いずれにしても県の経費の観点、幾らかかるのかという観点も含めて十分に検討してほしい。

〔教育長〕

- ・どういう役割を夜間中学として持つか。そこで果たせないものがもしあったとしたら、どうしていくべきか。そういったことまで含めて考えた上で、このあり方を見定めていくべきではないかというご意見だと思うので、私どももしっかり考えていきたいと思う。

〔黒田委員〕

- ・学力調査について、先ほど牧田委員の話にもあったが順位とか何ポイント上回っているとかというところはこのあと分析などが出てくるので、本県の子どもの分布などもできれば教えてほしい。こういうテストをすると理論的には正規分布するはずだが、最近殊に学力は二こぶになって出てくることがある。そうすると平均点というのはあまり意味を持たなくなってくる可能性もある。そういうあたりからも次にどういう手立てを打てばいいのかということに繋がっていくと思うので、そのあたりを教えてほしい。
- ・夜間中学について、これから設置の検討に入っていくと思うが、高校以上は通信制の課程があったりするが、中学校の場合は通信制の課程は認められていないと思う。外国籍の若い方々というのは勤務されている方が多くて、勤務形態が三交代制のような形で夜勤に一週間入るとか週ごとに夜勤が入るとかいう方が結構多いと思う。そうすると夜間とは言いながら月の半分ぐらいは勤務の関係で出てこれないという事も想定される。それから富山県は小さいとは言いながらも、例えば富山市内に作ったとして、仕事が終わってからそこまで出てくるということを考えるとちょっと無理があるのではないかと思う。多分そんなにたくさんは作れ

ないと思うので、この時代だからネットを使って授業に参加できるとか、場合によっては授業のガイドみたいなものを見ながら自分で学習したこともカウントできるとか、いろいろ新しいやり方は作れそうな気がする。たまには学校にみんな出てきて顔を合わせるということも大事だと思うので、そういうことを月に何回か設定するといったような、実施の細かいところも考えていけばいいのではないかと思った。

〔教育長〕

- ・ 今度協議会みたいなものを立ち上げていく中で、1つの枠でフルスペックというのは多分難しいという面はあって、どこを中心とするかということはやはり競争になってくるかと思う。そこについては本県としてどういうものが必要かという観点で、協議会の中でいろいろな要素を検討した上で、取捨選択という言葉が正しいのかわからないが、できること、特にしっかりやるべきことというようなものを把握していきたい。

〔牧田委員〕

- ・ 要するに夜間中学をどういうふうにやっていくかというのをこれから検討するという段階だ。そこでやはり黒田先生が今おっしゃったようなファクトが大事だと思う。本当に夜間中学というものに何を求めているか。大きな傾向としては不登校とかで中学校になかなか行けなかった人たちの学び直し、それから海外の方々が学力を向上させるという意味でのニーズがあると思う。それぞれを一緒に満足させようというのは多分無理な話なので、そこに夜間中学という義務教育課程の一部分を引っ張ってくるところの難しさがあり、そこは坪池先生が指摘したところだと思う。つまり、現行の中学校は履修時間をクリアすれば卒業できるが、夜間中学でもそうすることに意味があるのかということだ。学び直し、外国人にとっては新たな学びの観点から、基礎学力を身につけることが必須だからこそ夜間中学だと考えているので、それを突き詰めていけば現行の中学校と夜間中学の卒業生の修得学力において齟齬をきたし、市町村の中学校卒業者の存在価値がなくなってしまいそうで、その辺はかなりデリケートな課題だと思っている。本当に中学校を卒業していない人たちに卒業してもらおう中学校というのは必要だと思うし、海外の方々が義務教育課程ではないところで学ぶ中学、それはまさに県が施策としてやってもいい部分だというふうに思っていて、そういう考え方が必要だろうと思う。

〔教育長〕

- ・ 協議会も年度後半でいろいろやっていくことになると思うので、そこでの検討もこちらの方にご報告するなど、いろいろな意見を取り入れた形で進めていくべきかなと感じている。

〔大西委員〕

- ・ 全国学力学習状況調査についてだが、資料の中で例年小中学生とも家庭での学習時間が平日、土日とも全国と比べて少ないということだった。確か富山県はこれに対してゲームとかに費やす時間が長かったように記憶しているが、今年も同じだったのか。それでも学力調査の結果が結構よいというのはなぜかと考えたときに、学校の授業がとても良くて児童や生徒が学校の授業の中で理解ができているとか、短い時間でも家庭学習の質が良いとかに原因があるのではと考えていた。ひいては富山の先生の質がとても良いのではないかと感じた。児童や生徒が本当に健康的に成長して、高い水準の教育環境を維持できるように調査を役立てていただきたい。
- ・ 夜間中学についてはいろいろな意見が寄せられているが、私は回答数が気になっていたもので、今ほどの報告で、信頼できる値よりもとても多い回答数だったということではあった。今回のアンケートは作る、作らないではなくてどれだけニーズがあるかという事をとるアンケートだったのではないかと思うので、結果が出て良かったと思う。学力というところに意見がでていたが、義務教育の中で小学校や中学校の課程で子ども達が学ぶ、体験する、経験するという点に関してはどうなのか。総合的な学習の時間とか学校行事とかそのような活動は入るのが気になるところだ。できればそういうようなものもあったり、他県であるような日中学んでいる中学生と夜間中学との交流があったり、そういうようなものがあればよいと思った。

〔教育みらい室小中学校課長〕

- ・ SNS等の動画の視聴が心配だということだったが、昨年度は調査がなかったが今年度調査があり、やはり非常に多い、全国と比べても多いということだ。家庭での学習時間というのは委員のご心配のとおり少ない状況だ。先ほど大変お褒めの言葉をいただいてありがたい気持ちで、先生方が今までやってこられたことも非常に大きな影響があると思っているが、私どもとしては家に帰ってからの家庭学習のすすめのようなこと

はパンフレットとかでお知らせはしているのだが、これは本当に家庭も一緒にになりながら考えていかなければならないと考えている。

- ・あと夜間中学のことで1つ紹介したい意見の中に友達を作りたいという意見があった。昔いろんな理由で勉強できなかった高齢の方とか、なかなか学校に行きづらいというお子さんの保護者の方々の意見が非常にあった。学校に足が向かなくても子ども達は学校に行きたいという気持ちは決してゼロではないと思う。学校というところに行きたいという方々がいらっしゃるのであれば、少しでもそういったニーズに寄り添えるような教育課程は考えていくべきだというふうに個人的には思う。

〔坪池委員〕

- ・少ない時間で学力が高い、そういう子ども達のイメージを考えると家に帰ってもわからないことがないからやる必要がないんだという像が見える。そうしたときに自分でチャレンジして何か取り組むようなものを与えていく必要があるんじゃないか。例えば科学オリンピックの問題とかあるいは学テの過去問でも、そういう少し手ごたえがあるものを特に理解が早い子ども達に提供していくことで、すべての子ども達が自分の興味関心あるいは適性に応じたものに取り組めるような、家庭でやれるような工夫が必要じゃないかと思う。

〔教育みらい室小中学校課長〕

- ・個別最適な学びということを進める中で授業改善ということを進めている。その方針を打ち出したのが今年度で2年目になるが、そういったことを周知しながら、委員がおっしゃったような個人として進めたい学習が子ども達にあるのであれば、どんどん家でも勉強を進めていくのではないかと考えているので、授業改善を進めていきたいと思う。

午後1時45分、議事が終了したので教育長が閉会を宣した。